

教科(科目)	理科 (地学基礎)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 年次 (文理)
使用教科書	地学基礎 実教出版				
副教材等	ビジュアルプラス地学基礎ノート 実教出版				

1 学習目標

自然の事物・現象に対する関心や探究心を高め、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

3 評価の観点の趣旨

a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境を対象に、探究の過程を通して、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、野外観察、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得するとともに、報告書の作成や発表を通して、何が分かるようになったかを表現することができる。	地球や地球を取り巻く環境に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから、課題を設定し解決しようとする態度や、自然環境の保全に寄与する態度を身につけようとしている。

4 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	a 知識・技能	b 思考・判断・表現	c 主体的に学習に取り組む態度
評価方法	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験での表現 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験での表現 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。	上記の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・観察、実験での表現 ・レポートやワークシート、提出物などの内容の確認 などから、評価します。
	各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

5 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点と評価方法	
4	1章 地球の構成 と運動	地球の構造	・地球の形の特徴と大きさ、地球内部の層構造について理解させる。	7	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
5		プレートの運動	・プレートの分布と運動の様子を理解させるとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解させる。	7	a, b, c	
	定期考査				a, b	
6		地震と火山	・火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解させる。プレートの境界以外にも地震が発生することを理解させる。	8	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
7	2章 大気と海洋	大気と海洋の構造と運動	・対流圏、成層圏等が気温の変化によって区別されていることを理解させる。オゾン層による紫外線が吸収や、オーロラ等についても学ぶ。	8	a, b, c	実験レポート
		定期考査				
8 ・ 9		・大気の大循環 ・海洋の構造と海水の運動 ・日本の四季の気象と気候	・太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量が釣り合っていることを理解させる。大気と海洋の大循環で地球規模で熱が輸送されていることを理解させる。	10	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
	定期考査				a, b	
10	3章 宇宙、太陽系と地球の誕生	・宇宙の誕生 ・太陽の誕生 ・惑星と誕生と地球の成長	・宇宙の誕生及び太陽系の誕生について理解させる。ビッグバン、原始太陽系円盤等も扱う。地球の特徴については、海が形成されたことを中心に扱う。	7	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
11	4章 古生物の変遷と地球環境の変化	・地層のつき方 ・化石と地質時代の区分 ・古生物の変遷と地球環境	・大気の変化と生命活動が相互に関わりをもちながら地球環境が変化してきたことを見いださせて理解させる。古生物の消長により古生代、中生代、新生代の地質時代が更に細分化された「紀」に区別されていることを理解させる。	8	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
		定期考査				
12	5章 地球の環境	日本の自然環境	・日本における自然環境の特徴を理解させ、人間生活が深く関わっていることを学ばせる。	8	a, b, c	授業態度 発問評価 提出物 実験レポート
1 ～		地球環境の科学	・地球環境の変化の仕組みを理解させるとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識させる	7	a, b, c	
3		定期考査				

計70時間 (50分授業)

6 課題・提出物等

授業中の小単元毎の授業プリント及び実験時の実験レポート等の確実な提出を求めます。

7 担当者からの一言

中学校で学んできた内容を、もう一步深めた内容を扱います。
数値も扱うことになるので、『真剣に地学を学びたい』・『地学に興味関心がある』という気持ちのある生徒に選択して欲しいと思います。

(担当：祝部 克之)